

| | 第3回男女共同参画懇話会時(11/8開催) | 現在 | |
|-----------|---|--|---|
| ページ 番号 | 内容 | 内容 | 変更理由 |
| 3 | <p>(1)人口動態の変化 国勢調査による鳥栖市の人口は、平成17年から平成27年までの10年間で、64,723人から72,902人と8,179人増加しています。</p> <p><u>年齢階層別に人口を見ると、15歳未満の子どもの割合は、平成17年の15.9%、平成22年の16.7%、平成27年の16.4%とほぼ横ばいですが、65歳以上の高齢者の割合は、平成17年の18.0%から平成27年の22.6%へと上昇し続けています。</u></p> <p><u>また、生産年齢人口(15歳以上65歳未満の人口)の割合は、平成17年の66.0%、平成22年の63.4%、平成27年度の61.2%と減少しており、65歳以上の高齢者1人を支える働く世代にかかる1人当たりの社会的費用の負担の増加が予想されます。</u></p> | <p>(1)人口動態の変化 国勢調査による鳥栖市の人口は、平成17年から平成27年までの10年間で、64,723人から72,902人と8,179人増加しています。</p> <p><u>年齢階層別に人口を見ると、15歳未満の子どもの割合は、平成17年の15.9%、平成22年の16.7%、平成27年の16.4%とほぼ横ばいです。15歳以上65歳未満の人口の割合は、平成17年の66.0%、平成22年の63.4%、平成27年度の61.2%と減少しており、65歳以上の高齢者の割合は、平成17年の18.0%から平成27年の22.6%へと上昇し続けています。</u></p> | <p>「65歳以上の高齢者1人を支える働く世代にかかる1人当たりの社会的費用の負担の増加が予想されます。」という表現をしていましたが、近年では、生産年齢人口の中でも、働いていない学生が多いうことや、65歳以上の高齢者の中でも働いている人がいるという理由から、この表現については削除し、このグラフから読み取ることができる事実のみの記載としています。</p> |

| | 第3回男女共同参画懇話会時(11/8開催) | 現在 | |
|-------|--|--|---|
| ページ番号 | 内容 | 内容 | 変更理由 |
| 3 | <p>(2) 家族形態・生活形態の変化</p> <p>平成27年の国勢調査によると、鳥栖市の総世帯数は27,630世帯となり、調査のたびに増加を続けています。<u>1世帯当たりの人数を見ると、平成17年に3.0人であったものが平成27年には2.6人となり、平成17年から10年間で、人口は12.6%増えましたが、世帯数は21.1%増加しており、人口の増加とともに核家族化が進行しています。</u></p> <p><u>1世帯当たりの人数を見ると、平成27年は1人世帯が8,025世帯(29.0%)、2人世帯が7,225世帯(26.1%)を占めており、1人世帯と2人世帯を合わせると半数を超えており、年々、少人数の世帯が増えています。</u></p> | <p>(2) 家族形態・生活形態の多様化</p> <p>平成27年の国勢調査によると、鳥栖市の総世帯数は27,630世帯となり、調査のたびに増加を続けています。<u>人口は、平成17年から10年間で、12.6%増えており、世帯数も21.1%増加しています。1世帯当たりの人数を見ると、平成17年に2.8人であったものが平成27年には2.6人となり、単身世帯、夫婦のみの世帯やひとり親世帯などが増加するなど、家族形態が多様化しています。また、働き方や個人の価値観、ライフスタイル等の生活形態も時代の変化とともに多様化しています。</u></p> | <p>1世帯当たりの人数の少人数化が進行しているのは、核家族化が進行しているという理由ではなく、家族形態の多様化によることから、文章を変更しています。</p> <p>また、「家族形態・生活形態の多様化」という見出しでありながら、生活形態については触れていませんでしたので、文章を追加しています。</p> |

| | 第3回男女共同参画懇話会時(11/8開催) | 現在 | |
|-----------|-----------------------|--|--|
| ページ 番号 | 内容 | 内容 | 変更理由 |
| 5 | | <p><u>3 新たな課題</u></p> <p><u>「第2次鳥栖市男女共同参画行動計画」で設定した事業については、概ね計画どおりに実施することができました。</u></p> <p><u>平成28年度に実施した「男女共同参画社会に関する市民意識調査」によると、男女共同参画の進捗度を測る基本的な指標とされる「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という性別役割分業意識を否定する『反対派』の比率に関して、内閣府の全国調査を上回る結果が見られており、意識の醸成が進んでいると考えられます。しかし他方では、「男女にはそれぞれ役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」という考え方については『賛成派』の比率が多いなど、性別役割分業意識からの脱却が果たされていないことを示す結果も見られました。</u></p> <p><u>今回の計画策定に当たっては、男女共同参画に関する啓発・理解促進の取組は継続的に進めていくとともに、平成27年に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(女性活躍推進法)が制定されたことを踏まえ、男女平等な立場で仕事と家庭を両立させ、男性と女性がともに能力を活かしていくことのできる環境整備に向けた取組を進めていくことが求められています。</u></p> <p><u>また、平成23年に発生した東日本大震災、そして、平成28年の熊本地震の発生により、防災対策における女性の視点が必要であることが明らかになりました。</u></p> | <p>現行の行動計画について総括した内容の記載がなかったため、追加で記載しています。</p> |

| | 第3回男女共同参画懇話会時(11/8開催) | 現在 | |
|-------|---|--|---|
| ページ番号 | 内容 | 内容 | 変更理由 |
| 18 | 【現状と課題】1行目 核家族化は年々進み、市民の生活形態が多様化しています。 | 【現状と課題】1行目 家族形態や生活形態が多様化しています。 | 生活形態の多様化は、核家族化が理由ではないため、文章を変更しています。また、家族形態・生活形態の多様化に関する説明は、3ページに記載しているため、ここでは簡単に記述をしています。 |
| 18 | 【現状と課題】2行目 生活の満足度を尋ねたところ、個人としては7割強の人が「満足している」「どちらかといえば満足している」と答えています。それぞれの立場による満足度の割合を見ると、親としては5割弱、夫婦としては約4割の人が「満足している」「どちらかといえば満足している」と答えており、家庭の状態や立場によって意識に差が出るのが分かりました。 | 【現状と課題】2行目 生活の満足度を尋ねたところ、個人としては7割強の人が「満足している」「どちらかといえば満足している」と答えています。それぞれの立場による満足度の割合を見ると、親としては5割弱、夫婦としては約4割の人が「満足している」「どちらかといえば満足している」と答えており、家庭の状態や立場によって意識に差が出るのが分かりました。 また、親や夫婦としての満足度の割合を見ると、男女によって意識に差が出ています。 | 掲載しているグラフから、男女による意識の差もはっきりと見られるので、文章を追加しています。 |
| 32 | 【現状と課題】5行目 男性のDV被害については、専門の相談機関がアバンセの電話相談しかないような状況です。 | 【現状と課題】5行目 男性のDV被害については、専門の相談機関が佐賀県DV総合対策センターにあり、電話相談による対応を行っています。 | 男性の専門相談機関がアバンセにしかないことが課題であるように記述していましたが、男性の相談機関を設置していることは全国的に見ても先進的であるということから、表現を変更しています。 |
| 32 | 【現状と課題】14行目 相談体制の充実を図ることが必要です。 | 【現状と課題】14行目 相談体制の充実及び相談窓口の周知を図ることが必要です。 | 相談体制の充実を図ることも大切ですが、積極的に相談窓口の周知・広報を図ることも重要であることから、文章を変更しています。 |